

第18回 学術大会日程表

時間	グリーンルーム(SOUTH)	神殿前室
8:30	受付(一般口演・専門医)	
9:25	開会の挨拶	
9:30	一般口演 2題	ポスター展示
10:00	(1Fガーデンルーム EAST にて市民フォーラム)	
12:10	総会	
12:40	休憩・会場整備	
13:30	一般口演 4題	
14:15		専門医申請 ケースプレゼンテーション
15:30	生涯研修公開セミナー	ポスター撤去
17:00	閉会式	

市民フォーラム

10:00～12:00 1Fガーデンルーム EASTにて

(公社) 日本補綴歯科学会 平成 26 年度
東関東支部総会・第 18 回学術大会プログラム

受付開始 8:30 開会挨拶 9:25

大会長 會田雅啓

● 一般口演発表 (グリーンルームサウス)

9:30~9:50 一般口演 I

座長 飯島守男 准教授 (日大松戸)

1. 直接レジン築造法におけるレジンの硬化深度について

○若見昌信 増田美樹子 竹林千賀子 谷本安浩* 内田貴之** 村守樹理*** 會田雅啓
日本大学松戸歯学部 クラウンブリッジ補綴学講座, *歯科生体材料学講座
歯科総合診療学講座, *口腔病理学講座

[研修コード 2603]

2. CT 画像による下顎骨無歯顎歯槽頂の骨密度に関する検討

○井上紗由美, 川良美佐雄, 飯田 崇, 岩崎正敏, 岩田好弘, 本木久絵, 吉村万由子
鈴木浩司, 小見山 道, 黒木俊一
日本大学松戸歯学部顎口腔機能治療学講座

[研修コード 2699]

10:00~12:00 市民フォーラム

おいしく, 楽しく, 美しくなる「摂食機能」の実力

一齢を重ねるたびに喜びと誇りが膨らみますー

講師: 日本大学歯学部摂食機能療法学講座教授 植田耕一郎 先生

会場: 1F ガーデンルーム EAST

[研修コード 2804]

12:10~12:40 総会

12:40~13:30 休憩

13:30~13:50 一般口演 II

座長 小見山 道 准教授 (日大松戸)

3. 日中のバイオフィードバック訓練によるブラキシズムイベントと心拍数の変化

○飯塚知明, 佐藤雅介, 大塚英稔, 渡邊 明, 岩瀬直樹, 斉藤小夏, 猪野照夫, 遠藤 聡,
野露浩正, 寺田信幸*, 藤澤政紀
明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野, *東洋大学理工学部生体医工学科

[研修コード 2803]

4. 次亜塩素酸電解水を用いたアルジネート印象体の消毒に関する研究
○眞木信太郎, 濱坂弘毅, 曾根峰世, 下川原 忍, 松井藍有美, 大川 穰, 染川正多, 増田美至, 関 雅寛*, 岡本和彦, 大川周治
明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科補綴学分野, *東関東支部

[研修コード 2306]

13:50~14:10 一般口演Ⅲ

座長 黒木俊一 准教授 (日大松戸)

5. シリコン材料を用いた口腔内および石膏模型上での咬合接触面積の比較
○増田 学, 小見山 道, 小原綾子, 飯田 崇, 薦田祥博, 本田実加, 渡邊愛斗
浅川龍人, 浅野 隆, 川良美佐雄
日本大学松戸歯学部顎口腔機能治療学講座

[研修コード 2602]

6. 低Caラットに添加物配合飼料を摂取させたときの骨梁構造と骨質の変化に関する検討
○藤田佳奈美¹⁾ 渡辺丈鋏¹⁾ 高橋卓裕¹⁾ 木村全孝¹⁾ 中田浩史²⁾ 河相安彦²⁾
1)日本大学大学院松戸歯学研究科歯学専攻 (有床義歯補綴学)
2)日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座

[研修コード 2699]

● 専門医ケースプレゼンテーション発表・審査 14:15~15:15 神殿前室

ポスター掲示 9:30~15:30

1. 高度顎堤吸収へ症例の義歯補綴による機能回復
○佐藤 仁
日本大学歯学部歯科補綴学第Ⅰ講座
2. QOL の向上を求め患者の強い訴えに応じて無口蓋総義歯を作製した1症例
○吉村万由子
日本大学松戸歯学部顎口腔機能治療学

● 生涯学習公開セミナー 15:30~17:00

座長 佐藤博信 教授（福歯大）、會田雅啓 教授（日大松戸）

「ハイブリッドレジンでのCAD/CAM冠の対応」

ー保険適応に至る背景と臨床応用についての考え方ー

講師：佐藤博信 先生

福岡歯科大学 咬合修復学講座冠橋義歯学分野 教授

「ハイブリッドレジンでのCAD/CAM冠の対応」

講師：安部倉 仁 先生

広島大学病院 咬合義歯・診療科 診療准教授

[研修コード 2605]

生涯学習公開セミナー

15:30～17:00(2階グリーンルームサウス)

「ハイブリッドレジンでのCAD/CAM冠の対応」

ー保険適応に至る背景と臨床応用についての考え方ー

福岡歯科大学 咬合修復学講座冠橋義歯学分野
教授 佐藤博信

平成26年4月より小臼歯に齲蝕治療にCAD/CAM冠が保険収載されることになった。本治療法は2009年に先進医療専門家会議で、「歯科用CAD/CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴」という名称で先進医療として承認され、北海道医療大、広島大学、大阪歯科大学、東北大学において先進医療が進められ、今回の保険収載に至った。海外に於いても、2011年ころから同等品の臨床応用がなされ、注目が集まってきたところであるが、この歯科用CAD/CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴装置が適応された症例数は限られており、5年経過後の臨床評価等の文献は見当たらないなど、まだ評価が十分定まっているとは思われない。しかしながら、現存する保険収載の硬質レジンジャケット冠に比べ、格段に高い機械的性質を持っていること、近年歯科用CAD/CAMシステムによる補綴装置の加工精度が格段に向上していること、メタルフリーの治療が可能であるなどのメリットも大きい。そこで、日本補綴歯科学会としても、まずは治療の暫定的なガイドラインを作製し、本治療法の適切な実施をするための普及活動を生涯学習公開セミナーで行うことになった。

第一演者（社会連携委員会委員長あるいは医療問団検討委員会委員）ある私から、まず最近のCAD/CAM補綴の全体的な動向、「歯科用CAD/CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴」導入の背景について解説を加えていく。また、今後CAD/CAM冠の予後調査が重要と考えられることから、平成23年に厚生労働省が示した海外補綴物のトレーサビリティに関する指針等を解説するとともに、その問題点について言及したい。さらに我々が具体的にどのようにトレーサビリティに対応していくべきかなど事例を踏まえて解説を加える予定である。

また、第二演者からは本臨床の具体的な支台歯形成、咬合調整、研磨および装着の重要ポイント（暫定的な指針に相当）を具体的に解説していただき、我が国において「歯科用CAD/CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴」が適切に普及することに務めたい。

略歴

昭和52年3月	九州歯科大学歯学部歯学科卒業
昭和56年3月	九州歯科大学大学院歯学研究科歯科補綴学第一専攻 修了
昭和56年4月	九州歯科大学助手（歯学部歯科補綴学第一講座）
昭和59年4月	長崎大学助教授（歯学部歯科補綴学第二講座）
平成6年8月	文部省在外研究員（スウェーデン、イエテボリ大学歯学部 歯科補綴学講座）（平成7年6月まで）
平成10年4月	福岡歯科大学教授（歯学部咬合修復学講座冠橋義歯学分野）

「ハイブリッドレジンでの CAD/CAM 冠の対応」

広島大学病院 咬合義歯・診療科
診療准教授 安部倉 仁

平成26年4月より小臼歯の重度齲蝕に対する治療としての先進医療 “歯科用 CAD/CAM システムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴” が CAD/CAM 冠として保険導入されることになった。保険診療の CAD/CAM 冠による治療を行うためには従来の歯冠補綴とは異なる注意すべき点がある。CAD/CAM 冠（保険）を成功させるためには、適応症の判断（小臼歯のみ）、支台歯形成、咬合調整、研磨および装着の全てが重要であるが、特に CAD/CAM 冠特有のポイントは支台歯形成と装着である。適応症については、過少な支台歯高径、事実上の最後臼歯（後方歯の欠損）、高度な審美性の要望がある症例は避けた方がよい。

特に重要なポイントの一つは支台歯形成で、一般的な支台歯形成のルールを守ることが原則であり、さらに CAD/CAM システムの計測、加工の精度は支台歯形態と密接に関係していることから特有の注意点がある。

ハイブリッドレジンプロックは脆性材料であるので、咬合面の強度を確保するために適切なクリアランスが必要である。しかし、過剰なクリアランスを付与し、支台歯の高径が小さくなり過ぎると保持力が低下する。また、CAD/CAM システムによる支台歯の計測を容易にするために、通常より大きめのテーパーが推奨されているが、過度のテーパーを付与するとさらに保持力が低下する。CAD/CAM 冠は、通法のレジンジャケット冠より適合は緩めであるので、保持力が低下しないようにすることが術後の脱離を防ぐためにも極めて重要である。

その他の支台歯形成の注意点は、辺縁隆線や咬頭に生じやすい凸隅角を丸めることである。クラウン内面を加工するミリングバーの先端の直径は 1.0~0.8 mm であり、その径より小さい凹凸は再現不可能であるためである。クラウン辺縁部の強度を確保するために、マージン部の形成は太目のダイヤモンドバーでデイスチャンファーにするのが原則である。フィニッシュラインは不整形になりやすいが、CAD/CAM 冠の場合、ミリングバーは細かい形態の加工ができないため、フィニッシュラインを単純な形態に仕上げる必要がある。

もう一つの重要なポイントは装着である。装着前の試適、調整は通法通りで、研磨はハイブリッドレジンのフィラー含有量が高いため、陶材の場合と基本的に同じである。装着は歯質と支台歯の一体化を図るため、接着性レジンを使用することが必須である。プライマー（ボンド）併用型かセルフアドヒーシブ型接着性レジンセメントが推奨されている。CAD/CAM 冠の材料であるハイブリッドレジンにはフィラー含有量が高いため、フィラーを接着の対象として専用のシランカップリング処理を必ず行い装着する。

講演では本治療を成功に導くために、特に支台歯形成や装着などの基本的事項を中心にお話させていただく予定である。

略歴

昭和 57 年 4 月 広島大学歯学部歯科補綴学第二講座入局
昭和 58 年 4 月 文部教官広島大学助手歯学部附属病院（第二補綴科）
昭和 60 年 10 月 文部教官広島大学助手歯学部（歯科補綴学第二講座）
平成 5 年 1 月 博士(歯学)（広島大学）
平成 6 年 2 月 歯学部学内講師
平成 7 年 9 月 日本補綴歯科学会認定医
平成 12 年 4 月 日本補綴歯科学会指導医
平成 18 年 4 月 広島大学病院 講師（咬合・義歯診療科）
平成 18 年 10 月 広島大学病院診療准教授（咬合・義歯診療科）現在に至る